



①「ここに集まる人はみんな家族のようなものだよ」と一人を抱き締める藤岡所長 ②所長さんから給料袋をもらって思わず笑みがこぼれてしまう瞬間 ③仕事は楽しんで…。笑顔で野菜の種まき ④依頼のあった事業所で黙々と草取り ⑤朝礼は職員とボランティアが一緒に行ないます ⑥昼食の準備は、利用者全員で行ないます。今日もおいしいご飯をいただきます！ ⑦給食センター裏の畑に植えるジャガイモの芽かき作業。今から収穫が楽しみ

ある日、一人の利用者が「ボランティアさんどあ、なしてこうやって毎日来てくれるの？」と尋ねました。向川原さんは「理由なんてないのよ。おめあどおを好きだからだよ。かわいいから毎日こうやって来るんだよ」と答えたそうです。

好きだから、みんなのことを思うから毎日来て、毎日来るから家族のようになり、一緒に笑い、時には一緒に悩み、時には本気で叱ることもできる、すずらん工房には愛と情熱が満ち溢れています。

平成二十年度に工房を利用したのは一日平均十一人。それに対しボランティアの人数が平均四・七人とボランティアがいかに利用者の方を支えているかを物語っています。藤岡所長は「通常のボランティアといえは月一回や週一回、町で行うデイケアなどの事業を手伝うことだと思いますが、工房では毎日来て活動を手伝ってくれます。こんな地域は県内で、葛巻くらい

すずらん工房は、平日の水曜日を除く週四日開所しています。

工房では、エプロンや枕などの創作、月・木曜日は保健センターのお風呂の受付、火・金曜日はその清掃と公共施設など五カ所でコーヒー販売などを行っています。その他に、給食センターの裏にある畑で昼食用野菜作りや、季節に応じて町内の事業所の草刈りなどにも出掛けます。

取材の日は、県社会福祉協議会を通じて注文のあった貴重品袋二百セットを、納期に向けてそれぞれ割り当てられた作業に取り組んでいました。

所長の藤岡徹さんは「商品が丁寧だと口コミで広まり、町内外からたくさん注文をいただくようになるようになりました」と自信をのぞかせました。時には、注文が殺到して納期に間に合わせるのが大変なこともあるようですが、男性は裁断、女性はアイロウがけ・縫製・包装などを手分けして、利用者総動員で商品を作ります。

すずらん工房を利用する皆さんは、元気で明るく話好き。納期間近の忙しいときでも話に夢中になることもあるとか。そんな時は、ボランティアさんが「すずらん工房は安い・早い・仕事キッチリなんだから、口を動かさないで手を動かしてね」と発破を掛けることもしばしば。利用者の皆さんは「はい！」と返事をし、またテキパキと納期に向けて商品作りに取り掛かります。工房内には笑いが絶えないのです。

「理由なんてない、ただおめあどおが好きだから毎日こうやって来るんだよ」

でしようね」と誇らしげ。また、他の市町村の人たちからは、「よくこういった作業所でボランティアさんとうまくやっているねー」と言われるそうですが、「私たちボランティアは口も出すけれど、手も出します。手を出した以上はキッチリ最後まで手伝いをすることが職員とボランティアとの関係をより良く保つ秘訣ですかね。持ちつ持たれつですよ」と笑顔。「町内には、家庭に閉じこもっている人がまだまだいる。工房に来て私たちが一緒に楽しんで欲しい」と願っていました。

平成十八年、障害者自立支援法が施行され、家族会が運営していた工房は町社会福祉協議会の運営へと替わりました。障がい者を取り巻く環境が日々変化していく中で、すずらん工房開所前からずっと変わらずあり続けるのは、彼らを支える職員とボランティアの皆さんの地域と人を愛する心です。

すずらん工房は、平日の水曜日を除く週四日開所しています。

工房では、エプロンや枕などの創作、月・木曜日は保健センターのお風呂の受付、火・金曜日はその清掃と公共施設など五カ所でコーヒー販売などを行っています。その他に、給食センターの裏にある畑で昼食用野菜作りや、季節に応じて町内の事業所の草刈りなどにも出掛けます。

取材の日は、県社会福祉協議会を通じて注文のあった貴重品袋二百セットを、納期に向けてそれぞれ割り当てられた作業に取り組んでいました。

所長の藤岡徹さんは「商品が丁寧だと口コミで広まり、町内外からたくさん注文をいただくようになるようになりました」と自信をのぞかせました。時には、注文が殺到して納期に間に合わせるのが大変なこともあるようですが、男性は裁断、女性はアイロウがけ・縫製・包装などを手分けして、利用者総動員で商品を作ります。

すずらん工房を利用する皆さんは、元気で明るく話好き。納期間近の忙しいときでも話に夢中になることもあるとか。そんな時は、ボランティアさんが「すずらん工房は安い・早い・仕事キッチリなんだから、口を動かさないで手を動かしてね」と発破を掛けることもしばしば。利用者の皆さんは「はい！」と返事をし、またテキパキと納期に向けて商品作りに取り掛かります。工房内には笑いが絶えないのです。

「理由なんてない、ただおめあどおが好きだから毎日こうやって来るんだよ」



工房で作られる「そばがら枕」など商品の一例